

行列式 $|A| = \sum_{\sigma \in S_n} \text{sgn}(\sigma) a_{1, \sigma(1)} a_{2, \sigma(2)} \dots a_{n, \sigma(n)}$

① 3行3列の行列 = 行列式 ... サラスの方法



$a_{1,2}a_{2,3} + a_{1,3}a_{2,1} + a_{1,1}a_{2,2}$
 $- a_{1,1}a_{2,3} - a_{1,2}a_{2,1} - a_{1,3}a_{2,2}$

② 便利な性質 (上三角行列)

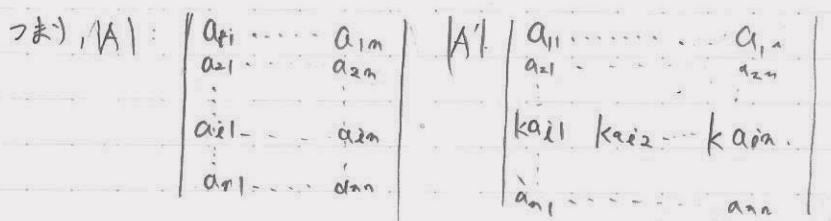
$A = \begin{pmatrix} a_{11} & 0 & \dots & 0 \\ a_{21} & & & \\ \vdots & & & \\ a_{n1} & \dots & \dots & a_{nn} \end{pmatrix}$ 対して $|A| = a_{11} a_{22} \dots a_{nn}$

たとえば、 $|A| = \sum_{\sigma \in S_n} \text{sgn}(\sigma) a_{1, \sigma(1)} a_{2, \sigma(2)} \dots a_{n, \sigma(n)}$ だが、
項の $a_{11} a_{22} a_{33} \dots a_{nn}$ 以外はすべて0を含まないためである。

③ 行列式一般には便利な性質

(1) n次の正行列Aにおいて、行ベクトルを A_i とする。
 A_i を k倍した行列を A' とすると、 $|A'| = k|A|$

$|A| = \sum_{\sigma \in S_n} \text{sgn}(\sigma) a_{1, \sigma(1)} a_{2, \sigma(2)} \dots a_{n, \sigma(n)}$
 $|A'| = \sum_{\sigma \in S_n} \text{sgn}(\sigma) a_{1, \sigma(1)} \dots (ka_{i, \sigma(i)}) \dots a_{n, \sigma(n)}$



1つの項の中で、1つの行から1つずつ取り出すものは全部の項で、
 $|A'| = k|A|$ と表すことができる。

(2) $A_i = A'_i + A''_i$ の解として好む。 A_i (A_iを取った行列) を A' とし、
 A_i を $A''_i = -A_i$ としたものを A'' とすると、 $|A| = |A'| + |A''|$

例 $A = \begin{pmatrix} a_{11} & \dots & a_{1n} \\ \vdots & & \vdots \\ a_{i1} & \dots & a_{in} \\ \vdots & & \vdots \\ a_{n1} & \dots & a_{nn} \end{pmatrix}$ $A' = \begin{pmatrix} a_{11} & \dots & a_{1n} \\ \vdots & & \vdots \\ a'_i & \dots & a'_i \\ \vdots & & \vdots \\ a_{n1} & \dots & a_{nn} \end{pmatrix}$ $A'' = \begin{pmatrix} a_{11} & \dots & a_{1n} \\ \vdots & & \vdots \\ a''_i & \dots & a''_i \\ \vdots & & \vdots \\ a_{n1} & \dots & a_{nn} \end{pmatrix}$ (2行目)

つまり、 $|A| = \sum_{\sigma \in S_n} \text{sgn}(\sigma) a_{1, \sigma(1)} a_{2, \sigma(2)} \dots a_{i, \sigma(i)} \dots a_{n, \sigma(n)}$ である。

したがって $|A|$ の足し算の全ての項に $a_{i1} \dots a_{in}$ を含むため、
 $(a'_{i1} + a''_{i1}), (a'_{i2} + a''_{i2}) \dots (a'_{in} + a''_{in})$ としておくと
さらに、2行目を西法則に適用すれば、 $|A| = |A'| + |A''|$ となるので
直感的にはわかりやすい。

(3) $A_i = A_j$ のとき、 $(i \neq j)$ $|A| = 0$

$A_i = (a_{i1}, a_{i2}, a_{i3}, \dots, a_{in})$
 $A_j = (a_{j1}, a_{j2}, \dots, a_{jn})$ とすると、 $a_{i1} = a_{j1}, a_{i2} = a_{j2}, \dots, a_{in} = a_{jn}$

$|A| = \sum_{\sigma \in S_n} \text{sgn}(\sigma) a_{1, \sigma(1)} a_{2, \sigma(2)} \dots a_{i, \sigma(i)} \dots a_{j, \sigma(j)} \dots a_{n, \sigma(n)}$

つまり、上のようになる。
 $a_{1, \sigma(1)} a_{2, \sigma(2)} \dots a_{i, \sigma(i)} \dots a_{j, \sigma(j)} \dots a_{n, \sigma(n)}$

$a_{1, \sigma(1)} a_{2, \sigma(2)} \dots a_{i, \sigma(i)} \dots a_{j, \sigma(j)} \dots a_{n, \sigma(n)}$

したがって、この項は0である。
つまり、全ての項において、0である。
 $(a_{1, \sigma(1)} a_{2, \sigma(2)} \dots a_{i, \sigma(i)} a_{j, \sigma(j)} \dots a_{n, \sigma(n)})$
 $(a_{1, \sigma(1)} a_{2, \sigma(2)} \dots a_{i, \sigma(i)} a_{j, \sigma(j)} \dots a_{n, \sigma(n)})$

また、この項は1回の置換が2回あるため、 $\text{sgn}(\sigma)$ の正負が逆になるため、
したがって、 $\text{sgn}(\sigma) a_{1, \sigma(1)} a_{2, \sigma(2)} \dots a_{i, \sigma(i)} a_{j, \sigma(j)} \dots a_{n, \sigma(n)}$
 $- \text{sgn}(\sigma) a_{1, \sigma(1)} a_{2, \sigma(2)} \dots a_{i, \sigma(i)} a_{j, \sigma(j)} \dots a_{n, \sigma(n)}$ となり、 $|A| = 0$